

## 一般質問発言通告要旨

通告者 6番 武藤義彦

### 1 次期市長選への出馬について

- (1) 田口市長は就任後「幸福度全国一」を目指し、財政健全化等の様々な取組を実施してきた。一方で、コロナ禍や度重なる自然災害等から市民を守る対応にも多くの時間を費やした3年8ヶ月だったと思う。田口市長にとってはまだ途上の施策・計画もあると思うが、現状での任期中の自己評価と、秋に控えた市長選で二期目を目指すのか伺う。

### 2 子どもの安全確保について

- (1) 先月、東京都立川市の小学校に男2人が侵入し、校舎内で教職員5人に怪我をさせたという事件があった。母親は侵入者と知人であり、以前から子ども同士のトラブルを学校側に相談していたとのことだ。仙北市内ではありえない事案だと考えるが、市内の小・中学校では不審者等への危機管理マニュアルは備えてあるのか伺う。また、父兄からの面談要請時にはどのような対応をしているのか伺う。
- (2) 令和5年の総務省調査によると、小学生にあたる6歳～12歳で自分のスマホを持っている割合は42.6%で、そのうちSNS利用者は41.8%となっている。また、13歳～19歳では83.5%と92%でほぼ2倍との結果であった。最初は友達とのコミュニケーションとして利用するが、有料サイトへの誘導等により事件・事故の被害も多く発生している。アクセス制限や時間制限をされている家庭もあると思うが、学校側としては児童・生徒の所有状況や利用形態をどの程度把握しているものか伺う。また、父兄から防犯対策に関する相談等はあるのか伺う。
- (3) 通学路で子どもが被害者となる交通事故が多発しているが、最近では故意に小学生を撥ねるといった悲惨な事故もあった。先月、桧木内小学校で仙北警察署の協力により交通安全教室を実施したが、今は保護者による送迎が多いため、特に低学年の児童には命を守るための交通ルールが浸透していないと感じた。交通事故防止は、学校だけではなく地域・家族・警察等が連携して取り組まなければならないが、さらに徹底させるにはどのような対応が必要と考えているのか伺う。

### 3 内陸線松葉駅の現状について

- (1) 松葉駅には連日多くのインバウンド客用の観光バスが停車しているが、駅前が狭いためほとんどのバスが国道で切り替えしている状況である。市民から市役所への苦情もあると思うが、国道・市道での事故も懸念されることから、駅前にスペースを確保する等の対応策が必要と考えるが、いかがか伺う。
- (2) 松葉駅前の駐車場は舗装されているが、損傷が激しくパッチング等で補修できるような状況ではない。インバウンド客だけではなく、市民も利用する駐車場であり早急な修繕が必要と思うが、いかがか伺う。

#### 4 高収益農業について

先日、(株)ストロベリーファームの宮下社長の講演を聴く機会があった。「夏秋イチゴ」は国内ではほとんど生産されていないため、夏場が比較的冷涼な仙北市西木町に会社を設立し、今では業務用の取引先が400店舗を超えているという。会社側で生産者から全量買取し、市場を通さず取引先へ直接出荷することでコストを下げ、高単価買取が実現できているとのことだ。また、令和7年の目標指標として、生産性を県の最低賃金の2倍以上としている。

- (1) 桧木内地区にも二人の生産者がいるが、地元には本社がある利点を活かして、稼げる農業として産地開拓を進めるべきと思うが、いかがか伺う。
- (2) 仙北市は産地創出の連携協定を締結しているが、その内容はどのようなものか伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 3番 中村和彦

### 1 これからの観光行政について

- (1) 仙北市最大のイベントである桜まつりも終わり、これから正念場の観光シーズンを迎える。例年、桜まつり後の観光客の減少を防ぐために、どのようにして誘客するのか伺う。
- (2) 今年は市街地に熊が頻繁に出没している。特に観光客への対応、とりわけ外国人観光客への対応について、どのようにしているのか伺う。
- (3) 第3次観光振興計画の見直しを行っていると思うが、見直す点があるとすれば、どのような計画を見直すのか伺う。
- (4) 以前にも一般質問したが、その後の宿泊税の進捗状況について、宿泊業者何社とどのような話し合いを行い、どのような質問等があったか伺う。
- (5) 冬季のシーズンを除けば、抱返り溪谷は、観光の重要な財産と思う。仙北市観光のコースとして、多くの観光客に来ていただくために、どのような戦略が必要か伺う。
- (6) 新たな観光地として、大覚野牧場を小岩井農場並みとは言わないが、整備して西木地区の活性化と人口減少対策を行ってはどうか伺う。
- (7) 約4年間に様々な政策を行い行政を進めてきた市長にとって、特にこれからの観光行政について、どうあるべきか考え方を伺う。

### 2 交通の利便性について

- (1) 秋田新幹線こまちの1番列車が、角館、田沢湖駅に停車すれば、東京駅に10時前に到着する。そうすれば、会議、観光等、様々なことを午前中から行うことができる。また、最終の新幹線も停車すれば時間を有効に使える。各種団体、国会、県議会議員等と連携してJRに強力に要望活動してはどうか伺う。
- (2) 角館駅に架かる陸橋について、改修の時期が来ていると伺った。これも以前に一般質問したが、利便性の観点から、この機会に東西通路実現のため、一緒に要望してはどうか伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 4番 澤田雅亮

### 1 市民福祉部

- (1) 現在仙北市の育児休暇中の保育園に預けられる時間は産休、通常時と比べ時短となっており16時30分までとなっているが17時30分まで増やすことはできないか。核家族が増加しており、高齢化により両親に頼れず母親が家事育児、休息を十分に取れない声を頂戴している。出生率が高い地域と違い現在の仙北市の状況を考えると保育園、保育士との協議は当然必要になるが子育て環境向上に非常に必要な施策と考えるがどうか。
- (2) 以前も質問をしたが、長期休みの児童クラブの弁当についてその後どのような調査、案、施策等の素案などはできているか。
- (3) 児童クラブにおける子どもたちの学力向上について、仙北市では保護者等の継続的な就労等により、放課後に家庭での保育ができない小学生を対象に、健全な遊びや生活の場を提供するために開設されている。  
一般的にも児童クラブの目的は、
  - ・子どもの安全確保、保護者が不在の時間帯に、事故や犯罪などのリスクから子どもを守るための居場所を提供。
  - ・健全な育成、遊びや集団生活を通じて、社会性・自立性・創造性などの発達を促す。
  - ・子育てと仕事の両立支援、働く保護者が安心して仕事を続けられるよう支援し、ワークライフバランスの向上を図る。
  - ・地域とのつながりの形成、地域住民やボランティアとの交流を通じて、子どもの社会的な経験を広げる。このように定義されており、これ以外でも仙北市では子ども達の自習を促し学力向上のために見守っていただいている現状に感謝している。  
昨今では様々なニーズに対応するために児童クラブ内で自習以外の習い事を取り入れたり、カリキュラムを追加する自治体、団体が増えているが、仙北市では今後児童クラブにおいて学力のさらなる向上を目指すために取り組む内容の素案や、施策はあるか。
- (4) 仙北市には様々なスキルを持った方が多く、その多くが自らのスキルをさらに活かし活躍できる場を作りたいと考えていると思われる。例えば、放課後児童クラブにおいて1つは市営で教育、学習環境の向上を目指した施策、1つは民間からスキルを持った方を募り、場所を提供し、習いたい子どもがいる場合、お金を別途で払い児童クラブ内で完結する習い事を設置することはできないか。活躍できる場所を増やし、用意することによって特別に予算をつける必要もなくチャレンジしたい人間にチャンスを広げられる環境づくりにも繋げられるので有用と思われるがどうか。

## 2 角館の花見、新緑について

- (1) 今年の花見シーズンの観光客数の推移と一人あたりの消費単価は前年と比較していくらであったか。
- (2) 出店（でみせ）の並びは観光客のみならず地元民も沢山利用することから盛り上がりを見せているため、出店される方々には引き続き頑張ってもらいたいと思う。それを後押しするようにあの部分は意外と武家屋敷側から来ても車を桜並木駐車場に停めても分かりづらい。特に人が多いと観光客の心境としては武家屋敷にそのまま進んでしまい気付かず帰るといったパターンも見受けられる。さらにわかりやすい看板、案内等を設置、もしくは組合から意見を吸い上げ形にしていくことが重要だと思うが、現状話し合い等はされているか。
- (3) 花見が終われば新緑が非常に綺麗で色彩コントラストが豊かな角館を楽しんでいただけだと思う。過去に新緑に力を入れていたが、現状の新緑の時期への集客目標、実績推移はどのようになっているか。また、設定するため、過去の施策から検証等を行っているか。
- (4) 仙北市が秋田県に誇る取り組みとして農地民泊があり、仙北市ブランドの重要な位置付けとなっている。一方で全国では、農地民泊は『衣食住』が全て施設内で完結してしまうため経済波及が限定的になる問題が指摘され始めている。宿泊者の施設外での消費単価平均はどのようになっているか。
- (5) 先の質問に関連して地域全体に経済波及させる取り組み、工夫として地元ガイド等との連携や体験ツアーを行なっている事業所との連携、地域通貨・商品券の導入（飲食店であれば各店サービス、小売業であれば割引だけでなく専用セット購入券）など市から特別な予算を出す必要はないが、各事業所へ集客を促す仕組みを作る。季節のイベント、祭りの情報共有とアクセスしやすい環境づくり。例えば、よぶのるのような民泊と事業所専門の回遊車（祭りや時期限定的で良い）なども施策として考えてはどうか。

また現在すでに取り組んでいる内容があるか。農地民泊と地域経済循環に繋げる事に成功している具体事例として以下の地域が挙げられる。

・新潟県十日町市      ・高知県中土佐町      ・熊本県小国町      ・岩手県遠野市

地域連携→宿泊施設だけでなく、飲食・体験・商店・行政などが横断的に協力。経済循環の設計→観光客が地元商店・飲食店・直売所などに自然にお金を落とす動線設計。地域との接点作り→広報・インバウンド対策・都市の交流。持続可能性→地域住民への利益還元や若手後継者の育成、資源の再投資。

以上の設計とビジョンがしっかりあげられてることが成功の要因にあげられている。

## 3 田口市長の来期について

- (1) 10月に仙北市長選があるが出馬の意向はどのようになっているか。
- (2) 幸福度 No1 を目指すまちをスローガンに7つのあるべき姿
  - ① 目標を持ち、やりたいことがある人が多いまち
  - ② やりたいことにチャレンジしている人が多いまち
  - ③ 日々の暮らしで生きがいを感じている人が多いまち
  - ④ 暮らしの中で、健康になれるよう努力をしている人が多いまち

⑤ 自分のことを大切に思ってくれる人たちがいるまち

⑥ 頼れる人がいるまち

⑦ 自分の居場所や役割があるまち

これらをこの4年でどこまでそれぞれの水準を上げることができたか、またその基準値はどうであったか。

(3) 今までに増して、社会、国際情勢が目まぐるしく変わっていく激動の中で市職員には柔軟かつスピーディーな対応を求められると思うが、この4年間でスピード感と柔軟に対応するための職員意識、やりがい、前向きな取り組みに対する変化はどのように変わり、残業等に対する職場環境は改善したか。

(4) 1期4年を市長としてご尽力されてきたが、今後仙北市に必要なことに対して当局として行なっていくべき施策と変えていくべき意識改革は何か。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 9番 平岡裕子

### 1 インターナショナルスクール誘致事業について

令和5年度から3か年の事業として取り組み、早2年目にして事業者が決まり、令和7年2月14日には、相手方と協定書を締結し、市は本校地の有力候補地となる埋蔵文化財の遺跡調査に取り組んでいる。旧白岩小学校2階部分を改修して9月には仮校舎として開校予定を、寄宿舍の見直しにより延期することになった。空き家をリノベーションして分宿案を進め、今後、KBHジャパンの代表取締役、開校取り組みの主導を創業者兼代表者のジョン・フェアロン氏に代わり、事務所兼住宅を購入するなど、事業者のビジネス寄りの教育観運営を感じる。説明会での地域への経済効果、事業に対する市の負担は、総事業費の10%程度で済むので評価できる事業と言われているが果たしてそうだろうか。白岩・田沢湖地区での説明会記録を読んで、質問に対する答弁内容の不確かさ（例えば、KBHを卒業したら国際教養大学を受験できるなど各種学校と一条校の違いによる資格）を市民から指摘があった。事業内容が市民にもわかるようにしていただきたい。

- (1) 事業費2分の1国庫補助金、残り市負担についても地方財政措置が講じられるとあるが、地方財政措置の具体的内容について伺う。
- (2) 総事業費5,876万3千円の内容を伺う。
- (3) 6社の応募があったと説明を受けたが、事業所名を伺う。
- (4) 現在の生徒募集と職員募集の進捗状況を伺う。
- (5) 生徒募集に関する規制緩和の内容を伺う。
- (6) 中国、台湾、東南アジアなどの外、日本人も受け入れると説明を受けたが、義務教育制度と各種学校（一条校未認定）の体制をどのように対処するのか。
- (7) 空き家を寄宿舍とする場合、市のかかわり方（財政負担）を伺う。
- (8) 地域貢献のため、空き家を分宿型寄宿舍として使用する場合、全寮制と異なり、入学する子どもたちの学びや生活の保障をどのように行うのか伺っていれば伺う。
- (9) KBH事業者が、土地や建物を購入する場合、外国籍の方の名義になるが、仙北市ではどのように対処するのか。
- (10) 埋蔵文化財発掘調査の進捗状況を伺う。

### 2 高齢難聴者補聴器購入費助成について

これまで所得の制限なく3万円を上限に助成があったが、今年度から課税世帯には2万円、非課税世帯に2万5千円となり結果減額となった。助成制度は、市民が市議会に請願をし、前市長・現市長・担当部署との話し合いの中で成立し、県内でも早期に実現したものだ。大仙市・美郷町では、上限5万円となっている。高齢者に限らず、18歳から対象とする。両耳も対象としているところもある。補聴器を使ったら別世界にいる

ようだと外出が多くなった方もいる。これまで、需要者がいれば補正予算対応もあったが、今年度は予算がなくなり次第終了。「枯れかかった木には水をやるなど言わんばかり」と高齢者の方から落胆の声が上がっている。3万円に戻してほしい。減額理由と復活について伺う。

### 3 こども誰でも通園制度導入について

仙北市こども計画（令和7年度～11年度）に、来年度から実施を検討するとある。計画書では、2名で推移する予定だが、市の対応を伺う。

- (1) 周知方法
- (2) 申請方法
- (3) 受け入れ園の人的配置の実態
- (4) 保護者と認可保育園または私立こども園の面談等の実施

### 4 緊急時の一斉伝達方策について

屋外の放送がなくなり、朝・昼・夕方の音楽に慣れ親しんできた世代から、せめてお昼だけでもと願う声がある。緊急時の一斉伝達のサイレン等は必要ではないだろうか。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 15番 高久昭二

トランプ関税、ロシア、ウクライナ、イスラエル、ハマスの戦争、混乱する世相の中で仙北市民が少しでも希望の持てる仙北市をめざして

- 1 仙北市の貴重な歴史、文化遺跡等を活用し、地域の発展に貢献する施策について
  - (1) 田沢湖の風土が生んだ直木賞作家千葉治平と姉詩人坂本梅子を顕彰し、作品等を展示できるコーナーを設置し、近い将来、田沢湖周辺に文学記念館を建設し、多くの方々に訪れていただくために。
  - (2) 西木町門屋の戸沢氏城址と角館町古城山（小松城）に戸沢氏が館を構えた史実に基づき、近い将来、古城山中腹に戸沢氏、芦名氏、佐竹氏三代の城郭館を建設することをめざして。（戸沢氏祭が中止になったため）同館に多くの観光客が訪れていただくよう、名所として内外にPRする。
  - (3) 田沢湖、神代、黒倉の貴重な遺跡群、出土品等、展示できる特設コーナーを黒倉抱返り会館に併設、設置すること（建設用地は市の土地）。その際、同箇所につき、発掘調査を実施すること。そして多くの内外の観光客等、学校の教材としても生かしていただく。
  
- 2 住民サービスを向上させ、市民生活を守り、市民の幸福度を高める仙北市をめざして
  - (1) 仙北市小中学校義務教育の「学校給食費」の無償化について  
保護者の経済的負担を軽減させ「学校給食の無償化を図るため、県、国へ支援を求める。（北秋田市も国の予算を確保し、今秋学校給食無償化を図る予定）
  - (2) 仙北市建設部建設課の機能を強化し、市民から要望の多い、市道等の補修、穴埋め、側溝改良、排水路等の整備に対応していくための具体的施策、同予算の計上等について問う。
  - (3) 物価高騰、生活必需品の値上がり、家計負担を軽減し、市内小売業者等にも経済的好循環を図るため、今年中に「商品券」配布（住民税課税、非課税世帯を問わず）再度給付する事業をめざして。
  
- 3 田沢湖黒沢工業団地への企業等の誘致を図り、若者の雇用と求人数を高めるために。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 2番 小田島 広 仁

### 1 安全・安心な観光地を目指して①

ここ数年で廃業、休業している観光施設が増えている。その中には十数年前から営業しておらず、少しずつ屋根がはがれたり、壁が崩れてきたり、今年の雪で崩壊した施設まで出てきている。見た目も勿論であるが、道路に面している施設もあり、強風等により歩行者や近隣住宅に住まれている方々も不安で仕方がないと思われるが、下記について伺う。

- (1) 市としての対応はどのようになっているのか。県道に接している施設もあるが、県からの協力を得ることができないのか。
- (2) 各施設と連絡が取れる状況になっているのか。
- (3) (各施設と連絡が取れている場合) 今後の営業継続等の確認は取れているのか。
- (4) 営業できないのであれば、解体等のお願いをすることはできないのか。
- (5) 全国でも同様の事例が多々ある。市として何か対策は検討しているのか。

### 2 安全・安心な観光地を目指して②

カラ吹き2号源泉については埋没する方向となっているが、進んでいない状況と認識している。また、道路にも近く、決して安全と言える状況ではないと考えるが、下記について伺う。

- (1) 埋没の方向は変わっていないのか。変わっていない場合、いつ頃まで事業を完了できる状況なのか。
- (2) 現状で安全と考えているのか。安全対策を強化する方向は考えていないのか。
- (3) 埋没は簡単ではないと思われる。活用したいという方々もいるが、可能性はどうか。

### 3 安定した温泉事業を目指して

当市の温泉事業は、利用されている施設から使用料等を徴収し、温泉の供給、源泉管理等をしている状況である。昔は旧田沢湖町で持っている源泉を利用していたが、現在は温泉を買っている状況で、費用面でも大きく変わってきていると考えられるが、下記について伺う。

- (1) 以前の利用料金や利用施設数と現在の状況がどのように変わり、費用面でどのようになっているのか。
- (2) かなり厳しい状況ではないかと思われるが、現状で継続していけるのか。厳しいようであれば対策はあるのか。

### 4 市民の安全・安心の暮らしのために

2月26日に発生した大船渡市における林野火災は4月7日の鎮火宣言まで1ヶ月以

上続いた。山林が多い当市も同様の可能性があり、不安を抱いている市民も少なくはない。また、ここ数年、各地で大雨等の大きな災害も多く、市民の安全を守り、安心して暮らすためには消防団の充実、消防団員の方々の頑張りが必要であると考え、下記について伺う。

- (1) 現状の団員数はどのようになっているのか、人数は足りているのか。不足しているのであれば、どれだけ不足していて、どのようにカバーしているのか。
- (2) 入団促進キャンペーンを実施したようだが、キャンペーン内容、効果、キャンペーンをきっかけに入団された方はどれくらいいたのか。
- (3) 大船渡市の林野火災の場合、消防団員は長時間の出動となったようだが、消防団員の長時間の出動に対して、加算金等について検討しているのか。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 7番 高橋輝彦

### 1 人口減少対策としての「角館高校魅力化」の取り組みについて

日本全国で進行している人口減少は、労働力不足による経済の衰退や税収減少等による生活利便性の低下により、さらなる人口減少に拍車がかかっていることが懸念されている。特に地方では、若者の都市部への移住が顕著で地域活力も低下していくことが課題となっている。

その中で「高校魅力化」は、地方の人口減少に対処するための有効な手段として注目されている。地方の高校を地域の特性や資源を活用した独自の魅力のある存在にして、高校時代の充実した経験が地域への愛着を強くし、少しでも多くの若者が地元に残ってくれることを目的とした「角館高校魅力化」に対する仙北市としての取り組みについて伺いたい。

また、秋田県では新知事の公約である、学業に限らずスポーツや文化活動などの頑張りを評価し、子どもたちの個性を生かせる入試制度改革を検討しているところである。角館高校の令和7年度の入学者選抜試験状況は、募集人員200名に対して志願者数が132名と少なくなっており、秋田県平均の志願者倍率を大きく下回っていることから、今後の入試制度改革に期待をしつつ、仙北市唯一の公立高校である角館高校の志願者数増加に向けた仙北市としての取り組みについても伺いたい。

- (1) 今年度の新規事業である「角館高校地域みらい留学推進事業」は、角館高校と仙北市が共同で県外学生の入学受入れを推進し、若者の将来的な定住人口増加につなげるとの説明があり、「角館高校魅力化」の一環であると捉えているが、今年度実施するとしているPR活動等による生徒募集のターゲットと、角館高校及び仙北市それぞれが具体的にどんなことをPRしていくのか伺う。また、令和8年度からの受け入れを目指すとしているが、来年度以降の仙北市の数値目標などの具体的な取り組みを伺う。
- (2) 仙北市の取り組みとして、県外学生の入学受入れを推進するための宿泊施設の整備は重要な施策であるが、仙北市の地域文化や観光資源、伝統工芸品などを活用しての人口減少対策を角館高校生に主体的に考えてもらうカリキュラムを導入するなど、仙北市への愛着を強く感じてもらえる独自性のある教育プログラムを提案していくことへの見解を伺う。
- (3) 角館高校生が卒業後も地元に残る可能性が高まり、大学卒業後も仙北市に帰ってくる可能性を高めるためには地元企業、仙北市、同窓会などが連携してキャリア教育をさらに充実させることが重要と考えるが、仙北市がその旗振り役になることについての見解を伺う。
- (4) 仙北市唯一の公立高校である角館高校の志願者数増加による活性化に向けて、学業の向上は勿論のこと、スポーツ部及び文化部ともに全国大会常連校にするため、角館高校、同窓会、各部のOB会、及び仙北市などが一体となり、プロジェクトチームを立ち上げるなどして、各分野で有望な中学生の勧誘活動を行うことへの見解を伺う。

## 2 インターナショナルスクール誘致事業について

インターナショナルスクール誘致事業については、1月に開催された住民説明会での計画概要から、仙北校の責任者の退任や仮校舎の寄宿舍の変更などがあることから、現況について確認したい。

- (1) インターナショナルスクール白岩仮校舎の開校時期を延期した理由が、中庭への寄宿舍建設を止めて、市内の空き家を活用するからとの説明だったが、5月に視察した十数件の空き家の所在地及び仮寄宿舍にするための条件等について伺う。また、送迎の必要がなく徒歩で通学できる白岩地区の空き家は活用しないのか伺う。
- (2) 空き家を活用した仮寄宿舍は、KBHが空き家を購入するのか、賃借してリニューアルするのか伺う。また、本校舎に移転後は仮寄宿舍をどうするのか伺う。
- (3) インターナショナルスクール白岩仮校舎の開校に向けて、寄宿舍以外の準備は着々と進んでおり大きな障害はないとの説明だったが、白岩仮校舎のリフォーム工事は、当初計画の6月から7月の2ヶ月で実施するのか。また、田沢湖畔の埋蔵文化財調査の進捗状況について伺う。

## 3 選挙における投票率向上の取り組みについて

投票率が高いことは、より多くの市民の意見が反映されるということであり、選ばれた人や政策は広範な支持を得たものとなり、民主主義の基本原則である多数決の原理がより強固に実現されることになる。また、多くの有権者が選挙に参加することで、政治家にもプレッシャーを与え、選挙公約を実行する責任が強まり、より質の高い政策を打ち出す効果があると言われている。

そこで、今回も仙北市の投票率を向上させる取り組みについて伺う。

- (1) 4月6日の秋田県知事選挙に投票所移動支援事業として実施した、タクシーによる投票所までの送迎実績を伺う。また、今後の選挙でも継続していくのか伺う。
- (2) 投票率向上に効果があるのは、何度も申し上げているが、県南4市のうち3市においてはすでに数年前から実施して効果が確認されているワゴン車やバス等での移動式期日前投票所の巡回であると確信しているが、仙北市では、総務省の補助金を最大限活用しての導入は断念してしまったのか伺う。

## 一般質問発言通告要旨

通告者 14番 真崎 寿浩

住民が安心して安全に暮らしていける地域づくりについて

### 1 非常時の情報伝達方法について(防災無線)

令和7年4月に屋外スピーカーによる伝達方式が廃止となって2ヶ月経過したが、廃止後の影響の有無について問う。

- (1) 住民から苦情や意見要望等が出されていないのか。
- (2) 個別受信機の貸与は順調なのか。
- (3) 緊急時の伝達方法に、他の手法(音や光等)による伝達方法を新たに検討する必要があるのか。

### 2 市道において、交通弱者に対する安全面でのさらなる充実について

設備面での改良等、要望がある箇所については整備を急ぐべきと考えるが、その見解、考え方を伺う。

- (1) ガードレールの設置状況について(安全は確保できているのか。)  
設置基準に基づいて設置されてはいるが、破損欠落等により機能を果たしていない箇所はないのか。また、設置要望等(市道観光線沿い等)に対して、どのように対応しているのか。
- (2) 道路区画線について(安全は確保できているのか。)  
年次計画で対応していることではあるが現状はどうなのか。